

公益社団法人隊友会

館山支部だより

平成28年5月号 (通巻74号)

支部の連絡窓口

千葉県隊友会館山支部
事務局(代表) 川村 巖

「汗をかきやすい体質づくり」にチャレンジ!

熱中症が心配される季節に向けて、今から“汗をかきやすい体質づくり”に心がけてみませんか。梅雨の合間や屋内で、「3分間の速足と並足ウォーキングを交互に5・6回」実行するだけで、“効率よく、質のよい汗?をかき体質”ができていくのか。
「暑けりゃ運動なんかしなくても汗をかくわい」と言わずに、先ずは実践してみたいはかがでしょうか。 <川村 記>

支部活動の概要 (実績&予定)

<p>《4・5月の活動実績》</p> <p>4.10(日) 千葉県護国神社清掃奉仕作業</p> <p>4.20(水) 千葉県隊友会通常総会(千葉市)</p> <p>4.24(金) 熊本地震災害派遣部隊激励(21空群)</p> <p>5. 9(土) 千葉県隊友会主催防衛講演会(千葉市)</p> <p>5.14(土) 支部総会・館空会との合同行事(下欄に紹介)</p> <p>5.27(金) 旧海軍落下傘部隊戦没者慰霊祭(安房神社)</p>	<p>《6・7月の活動予定》</p> <p>6.12(日)&7.18(月) 特定NPO主催 「海・河川浄化運動」協力(船形)</p> <p>6.20(月) 千葉県隊友会臨時支部長会議(千葉市)</p> <p>7.20(水) 千葉県隊友会前期理事・支部長会議(千葉市)</p> <p>7.30(土) 支部役員会(コミセン)</p>
---	--

支部総会&館空会との合同行事から 5.14 館山カトリック

※ 館山支部総会

千葉県隊友会河野会長出席のもと、平成28年度の支部総会が行われ、前年度事業・会計報告及び今年度の事業計画が原案どおり承認されました。

懸案事項として、多くの会員が参加するタイプの事業活動の追求(計画・実行)については、「(度々強調される)活動の活性化」とともに、今後の隊友会支部活動の成否を左右する大切な課題だと認識しております。このためにも、事業活動に対する支部役員(理事)の工夫努力とともに会員諸兄からの積極的な提案・アドバイス等をお願いするものです。

<支部長>



<館山支部総会>

※ 講話:「人の心は美しいか・歴史の真実(60分)」

講師:アスカグループ代表 丸 淳一氏

前回(2013年)の「尖閣諸島問題と人の心」に続いて、今回は目下、盛んに論議されている尖閣諸島や集団的自衛権の行使に関する問題の根底・背景にある、太平洋戦争や東京裁判、憲法の制定に関わる問題等について、ほとんど明るみに出されていない史実・歴史上の事例をふんだんに交え、問題の本質に突っ込んだ、講師の熱誠が伝わってくるような講話でした。

なお聴講者全員に、講師の最近の著書

「尖閣諸島問題と集団的自衛権を考える・誰がこの国を守るのか」(知道出版 2015.2発刊)の寄贈がありました。今回の講話内容についての理解を深める上での必読の書と言えましょう。 <編集子>

※ 館空会との合同懇親会

第21航空群から群司令を筆頭に20名の隊員の皆さんの参加を得て、総勢80名が集う懇親会でした。

鎌形群司令、河野千葉県隊友会会長の挨拶に続いて 吉永元館空会会長の乾杯の音頭で開宴、榎本理事(館空会副会長)の名司会振りで懇親の場は終始、和やか・賑やかな雰囲気の中で進められました。すっかり定番となった各隊代表による自己プレゼン・アピールは、絶妙な司会とあいまって、この懇親会の風物詩?として欠かせぬものになった感があります。

会員の異動

<入 会> 3月期 浅沼 孝会員(海、21空群)、宮崎 順一会員(海、21空群)
4月期 北岡 明会員(海、館空基)、北岡 順子会員(海事、21整補隊)
館山支部への即日入会を歓迎いたします。

<退 会> 3/31 加倉井正義会員(海) 申告退会
館山支部での長年のご尽力ご苦勞様でした。

隊友会総会議決権の行使について

平成28年度隊友会定時総会(6月23日)における各議案について、代理人(千葉県隊友会会長)に一任する場合は、「議決権の代理行使書(遠隔者等用、ハガキ)」を6月10日までに投函して下さい。 <事務局>

熊本地震災害に対する隊友会の対応

熊本地震災害に対する募金の依頼

隊友会は全国会員に対して、5月31日まで義援金・支援募金を募っております。会員から寄せられた芳志は、被災者への義援金として日赤寄託、また災害派遣部隊に対する激励品、災害支援ボランティア派遣経費等として順次充てられております。陸海空自衛隊在葉部隊の災害派遣活動状況は、「隊友千葉だより5月号」でも紹介されているとおりです。 募金は31日までです。

第21航空群に激励品贈呈! 4月24日(金)

千葉県隊友会安達副会長、日向理事役と同行して第21航空群司令を訪問、熊本地震でいち出勤し現地での災害派遣活動に従事中の21空、73空の搭乗員、支援隊員の労をねぎらい、隊友会会員の気持・激励品目録の贈呈が行われました。 <支部長>



<第21航空群司令に
激励品目録を贈呈>

<参 考>大正12年9月1日、関東一帯を襲った関東地震(マグニチュード7.9)により、館山市内の家屋はほぼ全壊、安房北条駅構内の機関車や貨車が全部横倒しになり、さらに(現在の館山航空基地が位置する)鷹の島と海岸までの海底が隆起し陸続きになるという巨大な地震でした。以降92年間、館山地方がこのような大地震に見舞われることが無かったということは、幸いなことですが、活断層の脅威が強調されるご時勢、お互い防災・減災の意義を再度考えて見ましょう。(編集子)

宇都隆史議員熱弁をふるう 5.9(月)夕・千葉市民会館

演 題:「21世紀の道標 外交・安全保障の側面から」(90分)

講話は、「28年度防衛費、初の5兆円突破!」の派手な報道とは裏腹に、高齢化に伴う社会保障関連経費の所要増加により、真に必要な防衛予算の確保が極めて厳しい状況について、防衛予算の仕組みを図解で聴衆に分かりやすく訴えたものでした。なお、第21航空群の3名の隊員が遠路を聴講に駆け付けてくれました。 <川村記>

<追記>宇都議員は一任期目で外務大臣政務官の要職を経験し、現在、外交防衛委員会・予算委員会委員、外交防衛・国会対策副委員長等々、沢山の要務をこなしております。この夏には任期を終えて、再出馬に意欲を燃やしております。多大なご声援を!



<千葉県隊友会HPから転載>

随 想 赤山の謎の構築物・巨大な燃料タンク工事跡

地下壕で知られる赤山には、壕と背中合わせに大きな縦穴が二箇所掘られている。終戦時、赤山はハケ山だったらしく、米軍が高空から撮影した赤山山頂の写真には二つの大穴がはっきりと識別できる。目測直径20m、深さ20mの円筒状で、容量的には5000KL、両方で1万KL近くあり、堅穴の底部に通じる水平の坑道も設けられている。航空隊が通常使用する燃料は基地内に燃料タンクを設けることが多く、館山航空基地の場合も、鷹の島に金属製のタンク群(覆土式)が2箇所設けられ(写真下)、貯油量も合計で1400KL程度である。このことから赤山の縦穴は海軍が航空燃料の「備蓄用タンク」として工事を進めたものであろうことは推定できるが、赤山の工事に関する記録資料は乏しく、なぜ館山に備蓄用タンクが計画されたのか、工事のてんまつ等、謎に包まれた部分が多い。

海軍の航空燃料備蓄計画とタンク建造工事

航空燃料の備蓄については、日米開戦に備えて50万キロリッター(KL)の確保を目標に、昭和10年ころから備蓄用タンクの増設に拍車がかげられた。開戦1年半は備蓄燃料で持ちこたえ、あとは南方占領地の燃料確保に期待するという算段であった。昭和12頃までの備蓄タンクは、なぜか左世保に集中して建造され38万KLに達していたが、昭和13年以降、横須賀地区に20基以上の建造が計画・着工され、すべて覆土式の5000KLタンクであった。赤山の2基のタンクもその一環といえる。赤山のタンクの着工時期については不明な点があるが、昭和16年頃の館山飛行場の平面図と軍需部館山支庫の施設図から、日米開戦前の昭和16年中頃には着工していたものと断定してもよいであろう。現在の犬黒屋商店の交差点から岸壁に至る、あまり利用価値のない?幅広い道路は、当時の赤山と岸壁を結ぶ工事用道路として、またパイプ(揚湯、給油用)の敷設用道路として建設されたものである。

開戦後の燃料事情と燃料タンク工事のてんまつ

開戦とともに航空作戦は予想を大きく上回る展開となり、1年も経たないうちに備蓄燃料を使い果たす状況であったが、一方で、南方占領地の燃料確保も順調に進展し、17年後半以降本土への燃料輸送は期待・予想を大きく上回った。しかしながら米軍の反攻が予想以上に速く、昭和18年には反攻の本格化とともに活発化した米潜の活動によって、本土への油の輸送が大きく滞り始めた。このような状況に鑑み、昭和18年に入り施設計画の見直しにより、備蓄燃料タンクの工事が中止されることになった。5000KLタンクの工期は2年半から3年と言われており、昭和16年に着工した赤山のタンクが未完成に終わったのも、この工事中止によるものであろう。



“シーレーン防衛”と国内燃料の枯渇

昭和20年に入り国内の燃料事情はますます悪化し、練習航空隊の操縦教育も大半が中止されるに至った。苦心の未確保した南方資源が日本本土に届くことなく、海中に没してしまったのも、シーレーン防衛の失敗からもたらされた必然の結果であろう。持たざる国の悩み、油をはじめ重要な資源の大半を外国からの輸入に依存する日本にとって、長航程に及ぶ海上交通路の安全確保はますます重要度を増し個別的自衛権の行使では到底成し得ない問題だと思ふのである。

<鷹の島の旧海軍燃料タンク>
(平成11年頃まで海自が使用)

<自称地域史探索マニア(海)その8>